

コロナ禍下のアフリカ・ビジネスに協力 スタートアップの現状を知るセミナー開催



2019年8月にJICAがエチオピアで開催したビジネスコンテストの様子。
テーマは「ICTを活用し、社会問題をビジネスとして解決する」。

近年アフリカではICT（情報通信技術）を活用したビジネスが次々と生まれ、社会課題解決の原動力になっている。6月24日、アフリカで新興企業への投資を進める企業のサムライインキュベイトとJICAは、「新型コロナウイルス感染症はアフリカのスタートアップにどのような影響を与えているのか」をテーマにオンラインセミナーを共催。現地事情に詳しい事業者や投資家、民間企業等から話者が招かれた。

JICA経済開発部の片井啓司さんは、現在もアフリカ大陸内の累積患者数が増加している点に触れ、「感染拡大封じ込めと、人々の命や生活から経済までを守る包括的な対策が

これまで以上に重要」と強調。登壇した事業者や投資家は、電子決済やICT活用の医療サービス等、コロナ禍で伸びている企業もあるが、総じて業績悪化の流れがあると報告した。

片井さんは「社会的に意義のあるビジネスが、事業縮小・事業転換等の見直しを迫られている。そうした企業への投資を、日本企業との連携を深めながら強化していきたい」と語った。

セミナーは平日日中の開催であったが、民間企業等から約700人の参加者が集まり、ビジネスを通じたアフリカの社会課題解決への高い関心がうかがえた。

*「イノベーション」による社会貢献を目的として新しい事業を行う新興企業。

ニュース深掘り! 社会変革のプレーヤーを日本が支える

* Next Innovation with Japan (NIJA)

こうした取り組みによって、日本企業のアフリカに対する距離を縮めることも目標の一つです。「アフリカは遠い」というイメージを持っている方も多岐にわたりますが、コロナの影響で思いがけず遠隔でのコミュニケーション機会も増えています。もっと多くの方にアフリカを身近に感じてもらうよう、ウェブセミナーや勉強会等、情報発信の機会をさらに提供していきたいと思えます。

アフリカのスタートアップの特徴は、社会課題の解決を志す起業家が事業を立ち上げて、医療や金融といった脆弱な公共サービスを補っていることです。起業は雇用や産業の多角化を生み、貧困削減や持続的な経済成長の推進に貢献するため、JICAとしても起業家に対する協力を力を入れています。

今、アフリカの経済活動は停滞し、事業のアイデアを実現できなくなった起業家や、運転資金不足に陥っている企業も少なくありません。JICAでは、日本の企業や投資家との連携も視野に入れたスタートアップ支援のためのプラットフォーム^{*2}の立ち上げや、コロナ禍における社会変化に対応したビジネスプランを発掘するコンテストの実施等を通じて、起業家たちの成長に協力していきます。

経済開発部
児玉顕彦さん
こだま・あきひこ

2008年入構。おもにアフリカや中南米地域の民間セクター開発のための案件を担当している。「現地の企業の成長を促進できるよう、どんどん新しいことに取り組みたいと思います」。



JICA HEADLINE NEWS

7月15日 | ▶ タイ コロナ後を見据えたサプライチェーン構築をサポート

産業集積地での水害リスクに備えた研究の成果を、コロナ禍下のリスク管理に生かす。

7月3日 | ▶ ミャンマー ヤンゴン川の航路標識の整備に無償資金協力

経済成長に伴う貨物取扱量の増加に対応。ミャンマー国内外を結ぶ物流の効率化を図る。

7月1日 | ▶ モルドバ「農業機械・設備近代化事業」に円借款

中小規模の農業事業者への設備供与で農業生産性の向上に貢献。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと
読みたい方はアクセス!

JICA ニュース 検索



◀◀ 「NINJAビジネスプランコンテスト」の
詳細はこちら。